



同好会ひろば

第278号
R1. 9. 4
No.3

フィールドワーク活動報告

8月8日(木)、静岡県磐田市、牧之原市にてフィールドワークを行いました。磐田市では、産業用ドローンで田んぼに農薬散布をする様子や、「ヤマハコミュニケーションプラザ」でドローン生産を手掛けるヤマハ発動機の最新技術について学びました。牧之原市の「伊藤園 静岡相良工場」では、麦茶と緑茶の包装ラインの見学や、品質管理や茶殻の有効活用の取組について学びました。日本企業の先端技術を学ぶことを通して、社会科教師としての見識を広げることができました。

訪問先①「ヤマハコミュニケーションプラザ」

磐田市では、ヤマハ発動機の方に、産業用ドローンを使って田んぼに農薬散布をする様子を見せていただきました。その後、「ヤマハコミュニケーションプラザ」に移動し、産業用ヘリコプターと産業用ドローンの違いや開発意図、用途拡大に向けての見通しについてのお話を伺いました。

安価な外国製ドローンに対抗するため、高性能な製品づくりに取り組んだり、消費者のニーズを製品開発に生かしたりとものづくりに携わる人々の思いを感じることができました。



【ドローンの説明を聞く様子】

昼食は、磐田市にある「お食事処 やまに」で、静岡県名産のしらすを堪能しました。

訪問先②「伊藤園 静岡相良工場」

「伊藤園 静岡相良工場」では、工場で働く方に説明していただきながら、麦茶や煎茶の包装ラインを見学しました。また、工場に併設する「中央研究所」の見学もしました。中央研究所で行われている製品開発や品質管理の様子、茶殻のリサイクルの取組について学ばせていただきました。

煎茶のメーカーから始まった伊藤園は、現在は総合飲料メーカーとなっています。グローバル企業としての伊藤園を支える中央研究所の見学を通して、日本の先端技術の一端を学ぶことができました。



【工場の方から説明を聞く様子】

【第278号 紙面】

- フィールドワーク活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p 1)
- 訪問インタビュー 鈴木 直政 先生・・・・・・・・・・(p 2・3)
- 7月小学校部会活動報告・中学校部会活動報告・・・・・・・・(p 4)
- 第2回授業づくり講座の様子・・・・・・・・・・・・・・・・(p 5)
- 授業力アップ研修グループの様子②・今後の予定・・・・・・・・(p 6)

鈴木 直政 先生

名古屋市の社会科教育を発展させるため、同好会事務局員、平成28年度全小社研名古屋大会実行委員長を務められました。生活科研究会委員長、校長会会長などを歴任された鈴木直政先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させていくための貴重なお話を伺いました。



<経歴>

昭和54年、名古屋市立中川小学校に着任。以降、広路小、宮根小、伊勝小を経て、苗代小校長に。その後、教職員課管理主事を務められ、浄心中、鶴舞小、東桜小校長を歴任されました。

社会科同好会では、事務局員を、生活科研究会では、委員長を、校長会では、校長会会長を務められました。

現在は、公益財団法人 愛知県教育振興会にて常務理事としてご活躍されています。

愛知県教育振興会・名古屋市教育会での仕事について

7月から愛知県教育振興会で勤めていますが、それまでは名古屋市教育会にいました。名古屋市教育会は、約120年続く組織で、校長会・教頭会・PTAなど、様々な組織の助成をしています。愛知県教育振興会は、名古屋市だけでなく愛知県内の教育関係団体の助成をしている組織です。

愛知県教育振興会は、『子とともに ゆう&ゆう』『明るい心』『明るい人生』などを発刊しています。時代の変化の中で、学校現場や多くの保護者の方にこうした刊行物を有益なものとして受け入れてもらうには、どのようにすればよいかを考えています。尾張、三河、名古屋と愛知県内が対象ですので、副読本のようなものは地域の実態を考慮に入れて作成しています。こうした刊行物の売り上げが県内の学校や家庭の教育助成に充てられていますので、より多く売り上げることで、教育助成の厚みを増していきたいと思っています。

生活科の立ち上げに関わって

平成元年度に学習指導要領の改訂が告示され、平成4年度から生活科が始まりました。同年に生活科研究員の枠が新設され、生活科の研究員になりました。また、宮根小学校で教務主任をしている際には、生活科研究会委員長を務めました。

生活科の立ち上げでは、前例のないものを自分たちでつくる経験をしました。大変さもありましたが、自由な実践ができるという楽しさもありました。自分たちが話し合ったことで様々なことを決めていくことができるという充実感もあったと思います。新学習指導要領の移行措置の時期に、同好会の低学年部会で部長から「本当に面白いことをしよう」という言葉を掛けてもらいました。本当に面白いことができれば、それが市教育課程につながっていくと。何か新しいことを始めるとき、何でもしてみようという意識が大切だと思います。

そして、平成11年度に名古屋で開催した生活科の全国大会は、それらの集大成として一定の成果を確信できた機会となりました。

現在の教育現場に思うことは

現在の立場からではなく、退職した一人として思うことは、「働き方改革」がどのように進んでいくか、これからの若い人にどのような影響を与えていくのかが気になっています。

より効率よく仕事するという観点で、様々なことが変わりつつあります。学校では早く帰るように言われることも多くなりました。若い人たちは遅くまで残ることは望ましくないと伝えられています。そうした中でも、手間を掛けてもしたいことをしたり、何気なく相談し合ったりする時間の大切さも見失わないでほしいとも感じます。

土曜日が授業日だった頃、午後の時間は、出席簿や週案などの事務作業をしたり、指導について相談し合ったりして、教員の輪をつくるのに大切な時間になっていました。それがなくなったとき、月曜日から金曜日の子どもが帰った後にそれらをするようになり、土曜日が休みになった分、月～金曜日は過密になりました。「働き方改革」で早く帰るようになる分、さらなる過密がやってくることはないか心配です。

忙しくなると、「まあこれくらいにしよう」という風潮になりがちです。そうなってしまうと、最低限度を守っていけばよいという意識に傾いていってしまいます。時間がなくなったことで、かえってゆとりがなくなったりして仕事へのやりがいや使命感が削がれていくことにつながる懸念しています。

教員の仕事は、対象が目の前にいるからこそ、やりがいを感じることができます。他の仕事では、自分がしたことが本当によかったかどうかを自分の目で確認できないこともあります。子どもが目の前にいることで、良いときも、悪いときも結果が分かります。それが、やりがいや使命感につながります。「働き方改革」が進む中でも、やりがいを感じて仕事に臨んでほしいと思います。

これからの同好会に望むこと

若手への働き掛けが充実して、日々の授業に生かすことができるアイデアを主とした研修が増えているように感じます。社会科同好会だけでなく、世の中全体が「どのように教えるか」ということに向かっていると感じます。

本来、「何を教えるか」と「どのように教えるか」ということは、並列に扱うべきだと考えています。その教材で、どのような社会認識をもたせるかを分析することが必要です。教材を調べ、その構造を分析して、教材開発をしていくことで、さらなる力を付けることができると思います。

研究員が一日研修だった頃と比べると、半日研修になり、研究員の一年にもゆとりが少なくなったように思います。研究員をゴールとするのではなく、そこからもう一段レベルアップするような意識が大切です。中堅となっていく人たちが学び続け、それをバックボーンとして、レベルの一段高い社会科の在り方を求めていってほしいと思います。そして、それが若手の指導につながっていくのだと思います。



7月小学校部会活動報告 7月24日(水) 於 中小企業振興会館

小学校部会では、来年度の新学習指導要領の全面実施に向け、新たな学習内容や既存の学習内容の教材開発を行い、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための社会科学習の在り方を追究しています。

各学年が開発している教材は以下の通りです。

3年生 単元「市の様子と人々のくらしのうつりかわり」(10時間完了)

- ・名古屋市の市域が変化した「70年ほど前」「40年ほど前」「現在」の三つの時期を取り上げる。
- ・交通、公共施設、土地利用などの時期による違いに着目して移り変わりを捉え、年表に表す。

4年生 単元「国際交流に取り組むまち・豊橋市」(6時間完了)

- ・外国人人口の割合が愛知県で一番多く、多文化共生のため様々な取組を行う豊橋市を取り上げる。
- ・行政や民間団体など、いろいろな立場の人や機関が協力して行う取組を名古屋市と比較して調べる。

5年生 単元「情報産業とわたしたちのくらし」(6時間完了)

- ・遠隔手術、電子カルテ、病院間連携など情報ネットワークによって発達が進む医療を取り上げる。
- ・病院が活用するネットワークを関係図にまとめ、自分たちの生活が向上していることを捉える。

6年生 単元「わたしたちの願いを実現する政治」(7時間完了)

- ・名古屋市民の願いが政治の働きによって実現された普通教室エアコンの設置率を取り上げる。
- ・エアコンの設置決定までの過程や予算との関わりを調べ、政治への興味・関心を高めていく。

9月には、教材開発単元計画案に沿って、授業案・板書案について検討します。11月には、実践の成果と課題を振り返ります。小学校部会にお越しいただきますよう、よろしくお願いいたします。

7月中学校部会活動報告 7月24日(水) 於 丸の内中学校

中学校部会には33名の先生方が参加し、各分野グループの1学期実践の報告と成果・課題の検討を行いました。

地理的分野グループからは、単元「アジアの多様性と経済発展」において、人々の生活の多様性を基に、「これまで」のアジアの地域的特色を理解し、「これから」のアジアの社会の在り方について考える実践が報告されました。成果として、考える段階での「評価シート」や、話し合う段階での「ポスター」が自分の意見の根拠をもつことに有効だった点などが報告されました。

歴史的分野グループからは、単元「幕藩体制の確立」において、地域素材を活用し、徳川家康の「清須越し」の時、清須の人々がどのような思いで町を移動したのかを考える実践が報告されました。地域教材を活用したことで、追究意欲を持続して学習を進めることができた点などが報告されました。

公民的分野グループからは、単元「現代社会と私たちの生活」において、AIの発展を通して、人と社会との関わり、将来の社会における人の生き方を考える実践の報告がされました。成果として、つなぐ段階でAIとどのように生きていくべきか考えたことで、AIと人間の共存ということに気付くことができた点などが報告されました。

各分野グループの報告に対し、参加者から社会科の授業を通して、子どもたちがどのような大人になってほしいのかについて質問がありました。目指す生徒像のその先の議論とも言え、全中社研名古屋大会のテーマ「人間の生き方を問い続ける」という視点が、各分野グループの実践をより一層深めるものになるのではないかと意見も出されました。合意形成を図る上で「大切なこと」「留意すべきこと」を明らかにし、それを踏まえ将来の社会の在り方を考える方向性が確認されました。この点についても、各分野グループで議論を深めながら1学期実践を分析し、2学期実践を計画していく必要があります。

若手の先生方から話し合い活動での評価の仕方について質問が出るなど、前回に引き続き、活発な協議がなされました。今後も、活発な中学校部会になるようたくさんのご意見をいただきたいと思っております。

第2回授業づくり講座

8月23日(金) 於 愛知県スポーツ会館

「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」と題して、年間4回の「授業づくり講座」を開催しています。

第2回は、小学校は「2学期の授業に生かせる教材の活用法」、中学校は「興味・関心をもって取り組める授業アイデア」という内容で行いました。

【小学校】講師：3・4年生：奥井 祥太 先生(南陵小)

5・6年生：永井 亮 先生(田代小)

3・4年生では、きょうどの学習を例に話し合い活動において意識することについて説明をされました。また、実際に2学期の単元において、どのように話し合いの授業を進めていくか、参加者同士で話し合いました。

5・6年生では、「教科書で教える」授業となるような教科書を使うポイントや資料集の活用について説明をされました。本文や資料にある「意図」を読み取り、「はてな」を考えることで、問題解決的な授業を行うことを学びました。

【中学校】講師：久々野 将広 先生(昭和橋中)

生徒の興味を引きつけるアイデアとして地図帳などを活用した活動や、単元の導入として教材化の工夫をすることを学びました。教材化の工夫として、特に「熱田新田」や「徳川宗春」、「鳴海球場」などの地域素材を活用すると、興味・関心を高めやすいことを学びました。その他、生徒が自分の考えをもつための活動など様々なアイデアを学びました。

今後の授業づくり講座は、以下のように進めていく予定です。



【3・4年生の様子】



【5・6年生の様子】



【中学校グループの様子】

回	日にち	講師
3	10月17日	山口 喬史 先生(如意小) 下村 芳敬 先生(藤が丘小) 関 真輔 先生(守山西中)
4	1月24日	水谷 公一 先生(小碓小) 加藤 大知 先生(南陽中)

《参加者の声》

【小学校】

- きょうどの学習の「話し合い」は子ども同士で話し合わせることもなく、全体で発表して板書するだけのようになっているので、こういうふうに話し合わせればよいのかと勉強になりました。
- 教科書をただ読むだけでなく、その文に隠された「はてな」を出すことで、深い学びになることに気付かされました。

【中学校】

- 授業で悩んでいることを、質問できたのでよかったです。導入の部分で「生徒に興味をもたせる」ということが、自分の授業では弱いと感じたので、2学期以降で学んだことを生かしたいです。
- 地域のネタを、どのように生かしていくかを学ぶことができました。道路や地名など、学区の特徴をこれから調べていきたいと思います。

授業力アップ研修グループの様子②

6月より、各グループで研修が始まりました。今回は、小7グループの研修の様子と参加者の声をお伝えします。

小7 リーダー：白金小 加藤 理恵 先生
 メンバー：春岡小 駒形 早紀 先生
 御器所小 浅岡 葉子 先生
 御器所小 長谷川 翠 先生
 西築地小 奥村 穂乃香 先生
 鳴海東部小 津田 悠希 先生



【活動内容】

今回は、メンバーのみなさんが取り組んだ1学期実践を持ち寄り、今後の研究の方向性を見通せるように話し合いを行いました。

リーダーの先生には、授業づくりだけでなく、学級経営の相談もできて、大変心強いです。

グループの先生方と授業について話し合っていると、「もっと頑張りたい！工夫しよう！」という気持ちになります。一緒に成長していける環境がとてありがたいです。

御器所小 浅岡 葉子 先生

月に1回の勉強会の中で学ぶことはとても多いです。お互いの困っていることや悩んでいることなどを共有し合えるので、いろいろな考えが授業づくりのヒントになっています。社会科はもちろん、他の教科も頑張ろう！と前向きに思うことができます。

鳴海東部小 津田 悠希 先生

社会科だけではなく、生活科など他教科の教材研究で悩んでいることを親身になって一緒に考えてくださったり、相談にのってくださったりするので、とても勉強になっています。グループでの研修会だけではなく、授業づくり講座などを通してこれからも教材研究に励んでいきたいです。

御器所小 長谷川 翠 先生

今後も、授業力アップ研修グループの様子について、同好会ひろばで随時お知らせしていきたいと思えます。



今後の予定



9月 5日(木)	小学校部会	19:00～	中小企業振興会館
	中学校部会	19:00～	丸の内中学校
10月17日(木)	授業づくり講座③	19:00～	ウィルあいち
10月31日(木)・11月1日(金)	全小社研岐阜大会岐阜県		
11月22日(金)	同好会懇親会	19:00～	ルブラ王山
11月27日(水)	小学校部会	19:00～	愛知県スポーツ会館
	中学校部会	19:00～	丸の内中学校